

# 茨城県 教頭会会報

発行者  
茨城県小中学校教頭会  
会長 根本 重文

事務局  
水戸市大場町933-1  
教育プラザいばらき  
電話 029-269-2711



学び合い、高め合う授業をめざして  
龍ヶ崎市立城ノ内中学校



## 「いじめ事件」から学ぶこと

茨城県小中学校教頭会  
副会長 鯉渕 和彦

日本全体で、今、いじめ問題が話題となっている。本県においても、いじめがもとで自殺した人がでている。とても残念なことである。特に、教育現場にとつては、ショックなことであり、慎重な対応が望まれる。社会では、「いじめゼロ」を目指すべきであると言われている。しかしながら、人間も他の動物と同じように群れをなして日々社会生活を営んでいる。その中では、互いにお互いを交わして、上手にコミュニケーションをとっている。残念ではあるが、コミュニケーションがうまくとれず、自分の思いを伝えることができないため、群れの中であがき、トラブルを起こし、相手にことばや身体で攻撃され、傷つき、群れからはずれ、ひとりぼっちになってしまう。このことは、動物の世界では当たり前のことである。人間には「理性」があり、その理性が働くことで人に対して、やってはいけないことはやらず、人を思いや

る気持ちを持ち、この気持ちを身に付けることが人間にとつても大切なことである。現在の社会で、このことを児童生徒に教えていくのが、我々教員である。また、子どもは地域の宝と言われ、家庭や地域が一体となつて、子育てを行っている。学校は、人間の群れの中で生きるすべを様々な体験を通して、身に付けさせ、大人になった時に群れからはみ出さないように教育する場である。そのためには、我々教員は、家庭や地域と連携し、しっかりと監督し、常に群れの中では、いじめが起こりうる可能性があるということを前提に、いじめがPTSDや自殺につながるようにすることを防ぐ。そのため、学校の要である副校長・教頭は、学校という群れの中の実態を把握し、担任に声をかけ、いじめを早期に発見する目を育て、児童生徒の安全を最大限確保し、保護者や地域の信頼につなげることである。

論説

地域と学校の連携による教育活動

—地域の教育力

(人・自然・歴史・伝統文化)を生かした

教育の推進—

筑西市立小栗小学校

川津法伸

はじめに

平成二十四年度の学校教育指導方針では、『魅力ある開かれた学校づくり』の中に「地域の教育力を生かした学校づくり」が重点化されている。

各校において、大規模・中規模・小規模校と違いはあつても、右記のことを踏まえ様々な実践がなされている。

本校は、明治六年創立で本年度は百三十九周年を迎える。児童数は、全学年単学級で全児童百四十一人の小規模校である。教育目標は、「自ら学び自ら考え 思いやりをもった 心身ともにたくましい児童の育成」である。その達成を目指すとともに、児童が地域に対する誇りと自分に対する自信と夢をもてるよう、地域の教育力(人・自

然・歴史・伝統文化)を生かした教育を推進している。

実践例

一 地域の伝統継承

本校の学区近くには、「新治廃寺跡」「新治郡衙跡」等があり、古代から地方の中心地として栄えた地域である。その中でも、学区内に所在する『小栗内外大神宮』は、八百六年創建で、国指定重要文化財(建造物)であり、『小栗内外大神宮太々神楽』は茨城県指定無形文化財となつている。

本校は、昭和五十五年度から「郷土芸能クラブ」の中で太々神楽保存会の方々から指導を受けながら、神楽の歴史や舞の研究を行ってきた(舞の練習は平成九年度末で中断)。「総合的な

学習の時間」の開始とともに内容を広げ四年生で「小栗地区内の建造物」、五年生で「小栗判官伝説」や「小栗太々神楽」について、調べ学習を中心に研究を継続してきた。平成十七年度から、地域の方々との交流を深めるために始まった「小栗ふれあいまつり」では、それらの研究を発表したり、小栗太々神楽保存会の方々の公演を鑑賞したりしてきた。昨年度から、今までの「総合的な学習の時間」の取組をより発展させるため、六年生児童が、一時中断していた小栗太々神楽保存会の方々の指導による神楽の体験活動を再開した。六月から十一月まで毎週金曜日に直接指導を受け、神楽の練習を重ねた。そして十一月三日に実施された「小栗ふれあいまつり」で地域の方々や保護者の方々、また、十一月十三日に実施された「筑西市教育の集い」で練習の成果を市民を対象に発表した。年度後半は、六年生児童が五年生児童に対して指導を行い伝統を引き継いでいる。今後とも下級生に思いやりをもった指導と伝統を引き継いでいきたい。

五年生児童は、前述のように地域の伝説である「小栗判官」

や「小栗太々神楽」についての調べ学習をしている。また、校外学習で学区内にある「小栗判官の菩提寺(一向寺)」と旧下館市内に所在する「小栗判官教室」での学習も加えるなど、より一層の充実を図っている。四年生児童は、小栗地区内の建造物について調べ学習をしている。

また、昨年度は「いばらきの魅力再発見事業学校ホームペー ジコンクール」において茨城県教育長賞を受賞し、県立図書館において「太々神楽」や「小栗判官」について実践発表をした。



小栗太々神楽の発表会

二 地域の史跡見学

夏季休業中に実施された「学びの広場」では、五年生児童が一日ではあるが学区内に所在する小栗城址の管理棟を会場に実施した。小栗城址は、小栗内外大神宮に隣接している。

当日は、朝から大変暑い日であつたが爽やかな風が吹く中で学習することができた。「学びの広場」の学習の終了後、「誇れる城山を育てる会」の会長さんから当時の小栗城の復元図を元に城址内を散策しながら説明をしていただいた。城址は、草木に覆われていたが、子どもたちは汗を流しながら本丸まで登ることができた。今後は、「誇れる城山を育てる会」の方々を学校にお招きし、視聴覚教材を使い、更に学習を深める予定である。

おわりに

本校で実践している「地域と学校の連携による教育活動」地域の教育力(人・自然・歴史・伝統文化)を生かした教育の推進」は、歴史と伝統ある学校・地域の方々の協力があつてこそ可能な活動である。今後、本校の児童が地域を知り、地域を愛し、地域とともに大きく成長していくことを願っている。

先輩教頭から

「気付く仲間を大切に」

元石岡市立吉生小学校教頭

鈴木秀卓

最初に赴任した頃は、慣れない教頭の仕事に追われ、学校全体を見る余裕もなく過ぎていくのを感じましたが、教頭として、まとまりのある職員集団と楽しくきれいな学校にすることを心がけました。

話し合いをする機会を多く持つようにしました。自分の考えを率直に発言できる場にしたと考えたのです。

まず、職員一人一人を知る必要があると考えました。先生方の得意なこととは何か、苦手としていることは何か、また、学校行事への取り組みや協力体制などの情報を得るようにしました。そのため、挨拶はもちろんですが、毎日一回は声をかけ、子どもたちのことや授業の進み方など雑談を含めて、コミュニケーションを取るよう努めました。

私たちは、学校教育の中で起きていくいろいろなことに対して、自ら課題意識をもち対処していくと思わなければ、何も気付くことはできません。学校生活で、授業の様子、他学年の様子、休み時間の様子、教室や校庭の様子など、良い点も悪い点も子どもたちに関するすべてを注意深く見て、いろいろなことに気付けてほしいと考えました。

楽しく良い雰囲気のある学校にしていきたいには、職員全員の良くしようとする意識と協力が欠かせません。学校教育活動に関わるすべてに対し、課題意識をもって取り組むことが重要と考え、

話し合いをする機会を多く持つようにしました。自分の考えを率直に発言できる場にしたと考えたのです。

「気付く」と言えば、新しい学校に赴任すると、不思議と子どもたちの行動や職員の指導のあり方など気になることがあります。良い点は素直にほめたり称賛したりすることができ、改善点に関しては、気付いてもなかなか言えないことがあります。気付いたことを提案し話し合える場を設定するのも教

頭の仕事だと思いません。その気付いたことをまとめれば、学校の課題が見えてくると思い、学校内外のことで、継続するものや改善したいことについて、次のような内容に関するアンケート調査を行いました。

- ・校務分掌に関する事
- ・児童の学校生活に関する事
- ・児童の学習活動に関する事
- ・校舎内外の環境に関する事
- ・保護者や地域との連携に関する事

アンケート調査の結果、学習体制や生徒指導の問題、学習環境や生活環境の整備のことなど、課題がたくさん出てきました。

改善に当たっては、教頭としてできること、職員個人ができること、協力し合っていることなど、話し合いをし、共通理解のもと実践してきました。すべてを解決することはできませんでしたが、先生方の意識も変容し、子どもたちの学習活動や学校生活が少しずつ変わってきたように思いました。

次に、学校の周りや校庭の花壇など、見えるところすべての環境を整えることが学校をより活性化させると考えました。

教室や廊下には、ワックスが掛けられています、よく見る

と汚れが落ちないままワックスを掛けた場所があり、かえって汚く見えます。そこで、全児童と職員で何日もかけて汚れを取り除き、改めてワックス掛けをし、きれいな床にすることができました。

特別教室や資料室などすべて掃除し、常にきれいな環境で学習できるように、たずさわった子どもたちも満足感を味わったと思います。保護者や地域の人から、きれいな学校と言われるのは本当にうれしいものです。雨の日にもぬかるむ校舎前の通路は、コンクリートを練り、職員で舗装しました。

特別教室や資料室などすべて掃除し、常にきれいな環境で学習できるように、たずさわった子どもたちも満足感を味わったと思います。保護者や地域の人から、きれいな学校と言われるのは本当にうれしいものです。雨の日にもぬかるむ校舎前の通路は、コンクリートを練り、職員で舗装しました。

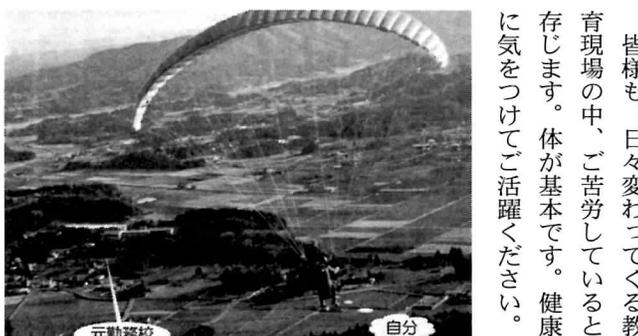


定年退職した現在は、週三日生涯学習課で仕事をしています。退職する数年前に、退職した後も継続してできる楽しみを作る

ことが大切ではないかと考え、パラグライダーを始めました。地域の「歩く会」で、峰寺山の山頂まで行ったとき、山頂から飛び立つ、パラグライダーの様子を見て感動しました。見ると年配者もいましたので、自分もやってみたいと思いました。不安はあったのですが、幸い、パラグライダースクールを開校している保護者がいたので、早速、入会しました。

現在は、他県からもフライヤーが集まりみんなで空中散歩を楽しんでいます。穏やかな晴れた日は遥か遠くまで見えて爽快です。

皆様も、日々変わってくる教育現場の中、ご苦労していると存じます。体が基本です。健康に気をつけてご活躍ください。



# だより

## を紹介します



新校舎「大階段ホール」  
を活用した合唱公開練習

石岡市立柿岡中学校



### 常陸太田市

常陸太田市教頭会は、  
小学校十四校、中学校  
八校、計二十二校、会  
員は二十四名で構成さ  
れている。

### 北茨城市

北茨城市教頭会は、  
小学校十二校、中学校  
五校の会員十九名で構  
成されている。  
本年度は、六名の新

### 那珂郡

那珂郡は、東海村の  
みで、小学校六校、中  
学校二校があり、教頭  
会は八名の会員で構成  
されている。本年度は、

### 神栖市

神栖市教頭会は、小  
学校十五校、中学校八  
校、二十六名の会員で  
構成されている。  
昨年度末、波崎東小

本年度は七名の新会員を迎え、  
会員相互の連携を図り、教頭と  
しての資質の向上を目指して研  
修の充実を図っている。

会員を迎え、会員相互の連携を  
図り、教頭としての資質の向上  
に努めている。

二名の教頭を迎えた。  
月一回の定例研修会を村内八  
校で順番に会場として実施し、  
それぞれの地域の様子や校内の  
環境等を知ることができる。研  
修会では、情報交換や学校運営  
諸問題についての話し合いによ  
り会員の資質向上に努めている。  
また、会場校の校長講話や指導  
室からの指導も有意義である。

この十年間、神栖市全体の児  
童生徒数の推移は概ね横ばいと  
いう状況であるが、市の中心部  
や新興住宅街では増加し、波崎  
地区の漁業を営む地域は年々減  
少傾向にある。また、外国人労  
働者の増加により、その子ども  
たちも増え、教育のあり方にも  
多様化が図られている。

定例の研修会では、市教育長、  
県北教育事務所学校教育課長、  
市校長会長、市教育会長、市教  
育委員会指導主事の先生方を講  
師として、学校運営上の諸問題  
解決のため、研修・情報交換等  
を行っている。

市教育委員会の指導講話並びに  
学校運営上の諸問題について、  
情報交換を実施し、各校の学校  
運営に生かしている。また、本  
年度は、教育活動への教頭の関  
わりについて研修を深めている。

月一度の定例の研修会では、  
市教育委員会の指導講話並びに  
学校運営上の諸問題について、  
情報交換を実施し、各校の学校  
運営に生かしている。また、本  
年度は、教育活動への教頭の関  
わりについて研修を深めている。

この十年間、神栖市全体の児  
童生徒数の推移は概ね横ばいと  
いう状況であるが、市の中心部  
や新興住宅街では増加し、波崎  
地区の漁業を営む地域は年々減  
少傾向にある。また、外国人労  
働者の増加により、その子ども  
たちも増え、教育のあり方にも  
多様化が図られている。

#### 本年度の主な活動

四月 市教頭会総会・研修会

五月 市教頭会研修会

六月 市教頭会研修会

七月 市教頭会総会・研修会

八月 市教頭会研修会

九月 市教頭会研修会

十月 市教頭会研修会

十一月 市教頭会研修会

十二月 市教頭会研修会

一月 市教頭会研修会

二月 市教頭会研修会

三月 市教頭会総会

四月 市教頭会総会

五月 市教頭会総会

六月 市教頭会総会

七月 市教頭会総会

八月 市教頭会総会

九月 市教頭会総会

#### 本年度の主な活動

四月 市教頭会総会・研修会

五月 定例研修会

六月 定例研修会

七月 定例研修会

八月 夏季研修会

九月 県北地区教頭研修会

十月 定例研修会

十一月 定例研修会

十二月 高萩市教頭会との研修会

一月 定例研修会

二月 定例研修会

三月 定例研修会

四月 定例研修会

五月 定例研修会

六月 定例研修会

七月 定例研修会

八月 定例研修会

九月 定例研修会

#### 本年度の主な活動

四月 総会並びに研修会

五月 定例研修会

六月 定例研修会

七月 定例研修会

八月 全国教頭会研究大会東京  
大会参加

九月 学校運営研究協議会  
大会参加

十月 県小中学校教頭会研究  
大会日立大会参加

十一月 定例研修会

十二月 関東ブロック教頭会研究  
大会群馬大会参加

一月 中央ブロック小中学校教  
頭会研修会参加

二月 定例研修会

三月 定例研修会

四月 定例研修会

五月 定例研修会

六月 定例研修会

七月 定例研修会

八月 定例研修会

九月 定例研修会

#### 本年度の主な活動

四月 市教頭会研修会

五月 市教頭会研修会

六月 市教頭会研修会

七月 市教頭会研修会

八月 学校管理運営研修会

九月 全国教頭会研究大会

十月 市教頭会研修会

十一月 市教頭会研修会

十二月 市教頭会研修会

一月 市教頭会研修会

二月 市教頭会研修会

三月 市教頭会研修会

四月 市教頭会研修会(日立大会)

五月 市教頭会研修会

六月 市教頭会研修会

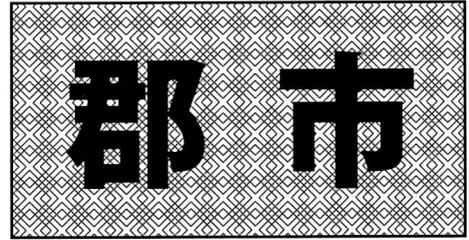
七月 市教頭会研修会

八月 市教頭会研修会

九月 市教頭会研修会

# 今回紹介の郡市

- つくばみらい市
- 稲敷郡
- 結城市
- 坂東市
- 桜川市
- 土浦市
- 取手市
- 牛久市
- つくば市
- 常陸太田市
- 北茨城市
- 那珂郡
- 神栖市



## 各郡市の活動

### 土浦市

土浦市教頭会は、小学校二十校、中学校八校で構成されている。本年度は十一名の新会員を迎え、会員相互

の連携・親睦を図りながら副校長・教頭としての資質の向上に努めている。

会員は、研究部、調査部、広報部、法制部、要請部のいずれかの専門部に所属し、市教育委員会・市校長会との連携を図りながら、学校運営上の諸問題についての情報交換及び共通理解解決のための研修を行っている。

#### 本年度の主な活動

- 四月 市定例研修会
- 五月 市定例研修会
- 六月 市定例研修会
- 七月 市定例研修会
- 八月 全国教頭会研究大会
- 三者合同研修会
- 教育展望セミナー
- 県南教頭会連絡協議会
- 九月 市定例研修会
- 十月 市定例研修会
- 十一月 市定例研修会
- 十二月 市定例研修会
- 県教頭会研究大会

### 取手市

取手市教頭会は、小学校十八校、中学校六校、会員数二十四名で構成されている。「生きる力をはぐく

む豊かな学校づくりと教頭のあり方」をテーマに、定例研修会において、新しい教育の動向や学校運営上の課題、各校の取り組みについて情報交換を行うと共に専門部を中心とした研修で、教頭としての資質向上に努めている。

また昨年度に続き、校長会・教務主任会と連携した小中連携の特設委員会を設置し、義務教育九年間の「学びの連続性」を追求している。

#### 本年度の主な活動

- 四月 市教頭会総会・研修会
- 五月 市教頭会研修会
- 六月 市教頭会研修会
- 七月 市教頭会研修会
- 八月 市学校経営合同研修会
- 九月 市教頭会研修会
- 十月 市教頭会研修会
- 十一月 市教頭会研修会
- 十二月 市教頭会研修会
- 県教頭会日立大会参加
- 県教頭会日立大会参加

### 牛久市

牛久市教頭会は、小学校八校、中学校五校（教頭複数配置校一校）計十四名で構成されている。

本年度は四名の新会員を迎え、「組織目標達成に向けての教頭の在り方」というテーマを設定し、資質の向上に努めている。

毎月の定例教頭研修会では、担当校の実践発表を基に、日々の職務の中で感じる課題や取り組みについて話し合うことで研修を深めている。

#### 本年度の主な活動

- 四月 教頭会総会・組織づくり
- 五月 学校概要に関わる研修
- 六月 市定例研修会
- 七月 市定例研修会
- 八月 市定例研修会
- 九月 市定例研修会
- 十月 市定例研修会
- 十一月 市定例研修会
- 十二月 市定例研修会
- 県南ブロック研修会
- 三者合同研修会
- 「地域合同避難訓練」

### つくば市

つくば市教頭会は、小学校三十八校、中学校十五校、会員五十六名の大所帯である。昨年度は県南教頭会のご

協力を得て、初めての県教頭会研究大会つくば大会を実施した。本年度より、つくば市では本格的に小中一貫教育をスタートさせた。市内全中学校区を単位として〇〇学園と名称をつけ、小中合同の行事、乗り入れ授業などを行っている。市教頭研修会でも学園単位で、各校の特色ある取り組みなどについての情報交換を行っている。また市教育委員会や市校長会の先生方を講師としてお招きし、学校の管理運営、法規などについての研修も行い、会員同士、高め合っている。

#### 本年度の主な活動

- 四月 市教頭会総会・定例会①
- 五月 市教頭会総会
- 六月 市教頭会定例会②
- 七月 市教頭会定例会③
- 八月 市教頭会定例会④
- 九月 市教頭会定例会⑤
- 十月 市教頭会定例会⑥
- 十一月 市教頭会定例会⑦
- 十二月 市教頭会定例会⑧
- 県南教頭会石岡大会
- 県教頭会日立大会
- 県教頭会日立大会

つくばみらい市

つくばみらい市教頭会は、小学校十校、中学校四校、会員十四名で構成されている。今年度は、三名の新

会員を迎え、新会長を中心に、会員相互の連携と教頭としての資質の向上に努めている。

毎月の研修会では、市教委指導室長のご指導をいただきながら、学校運営上の諸課題の解決に向けた研修を行っている。

八月の学校管理運営研修会では、校長・教頭・教務主任の合同研修会として行われ、教頭代表、教務代表が実践発表を行った。特に教頭部会では、小中一貫体制づくりの運営についての発表があった。

本年度の主な活動

- 四月 市教頭会総会・研修会
五月 市教頭会定例研修会
六月 市教頭会定例研修会
七月 市教頭会定例研修会
八月 市学校管理運営研修会
九月 市教頭会定例研修会
十月 市教頭会定例研修会
十一月 県教頭会日立大会
十二月 市教頭会定例研修会
一月 市教頭会定例研修会
二月 市教頭会定例研修会
三月 市教頭会年度末反省会

稲敷郡

稲敷郡教頭会は、小学校十四校、中学校六校で構成されている。今年度は七名の新会

員を迎え、新会長を中心に、二十名の会員が相互に連携と親睦を図りながら、教頭としての資質の向上と学校の活性化に努めている。

今年度は研修テーマを「信頼される学校づくりと教頭の在り方」とし、テーマに沿った研修を進めている。

八月の全体研修会では、郡校長会・郡教務主任会と合同で研修を行った。講師として茨城県私学協会会長・東洋大学理事の廣瀬和喜先生をお招きし、「教職員のメンタルヘルスの対応」について講演をいただいた。その後、課題研修として三つの分科会に分かれ、テーマに基づいて意見交換や情報交換を行った。

本年度の主な活動

- 四月 郡教頭会評議員会
五月 郡教頭会総会・研修会
七月 全国教頭会研究大会
八月 郡教頭会夏季研修会
九月 県南ブロック教頭会研修会
十月 関プロ教頭会研究大会
十一月 郡教頭会日立大会
十二月 郡教頭会評議員会
一月 郡教頭会評議員会
二月 全国教頭中央研修会

結城市

結城市教頭会は、小学校九校、中学校三校の会員十二名で構成されている。今年度は四名の新会

員を迎え、新会長を中心に会員相互の連携により、教頭としての資質向上に努めている。

月一回の定例教頭会では、会場校長及び指導課指導主事より講話・指導をいただき、また、毎回テーマを決めての提案発表等を行いながら、学校運営上の諸課題の解決のために、研修や情報交換を行っている。

本年度の主な活動

- 四月 市教頭会総会
五月 三者合同研修会
六月 市定例教頭研修会
七月 市定例教頭研修会
八月 市合同研修会
九月 市合同研修会
十月 市定例教頭研修会
十一月 市定例教頭研修会
十二月 市定例教頭研修会
一月 市定例教頭研修会
二月 市定例教頭研修会
三月 市定例教頭研修会

坂東市

坂東市教頭会は、小学校十三校、中学校四校、会員十八名(副校長一名)で構成されている。

今年度は、四名の新会員を迎え、会員相互の連携・親睦を深め、副校長・教頭としての資質向上に努めている。

定例の研修会では、毎回テーマを決めて提案発表を行い、学校運営上の諸課題解決のため研修・情報交換を行っている。

また、坂東市教育委員会教育長、教頭会担当校長、会場校長より講話及び指導をいただきながら、より実践的な研修となるよう取り組んでいる。

本年度の主な活動

- 四月 定例研修会・組織づくり
五月 県教頭定期総会
六月 定例研修会
七月 全国教頭会研究発表大会
八月 学校運営合同研修会
九月 県西ブロック小中教頭会
十月 定例研修会
十一月 関プロ研究大会群馬大会
十二月 県教頭会研究大会
一月 定例研修会
二月 定例研修会
三月 定例研修会

桜川市

桜川市教頭会は、小学校十一校、中学校五校、会員十六名で構成されている。今年度は、三名の新

会員を迎え、会長を中心に会員相互の連携と親睦を図りながら、教頭としての資質の向上に努めている。

本教頭会では、二十一世紀をたくましく生きることのできる子どもたちを育成するため、「創意と活力に満ちた学校経営の推進を図り、生きる力をはぐくむ開かれた学校づくりの推進と教頭の在り方」を中心課題とし、各校の実態に応じた学校運営上の課題をとらえ、研修の充実に向けている。

月一回の定例研修会では、担当校教頭の提案に基づく相互研修を基本としている。年一回、校長、教務主任等との合同による学校運営研修会もしている。

本年度の主な活動

- 四月 市教頭会定例研修会
五月 市教頭会定例研修会
六月 市教頭会定例研修会
七月 桜川市学校運営研修会
八月 県西ブロック小中学校教頭研修会
九月 県教頭会研究大会
十月 市教頭会定例研修会
十一月 市教頭会定例研修会
十二月 市教頭会定例研修会
一月 市教頭会定例研修会
二月 市教頭会定例研修会
三月 市教頭会定例研修会



地域の信頼に支えられ

大子町立袋田小学校

本校は、創立百三十八年の歴史を有し、築五十有余年の木造校舎は、児童のみならず地域住民全ての誇りである。「知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童を育成する」を教育目標とし、児童は「やさしく 元気に すくすくと」を、教師は「全ては子どもたちのために」を合い言葉として、日々精進している。

本校の特色は、まず読書活動にある。昨年度は四年生以上の全員が五十冊を読破して水戸教育事務所長から表彰され、三百冊以上読破した五名は県知事賞を受賞した。そして地域ボランティアによる読み聞かせや朝読、家読、朗読コンサート、詩のチャンピオン大会などの活動が認められ、文部科学大臣から「子どもの読書活動優秀実践校」として表彰を受けた。今年度は代表児童二名が国立青少年教育振興機構等主催の「わくわく子ども読書キャンプ」に参加した。

全国三十八都府県から集まった小学生九十六名と交流し、多くのことを学んだ。帰校後には報告会を行った。また、十月下旬から十一月月上旬にかけて、朝日新聞の記事になった本校の取組は、大きな反響を呼んだ。

もう一つの特色は、環境美化である。毎年土づくりから播種・仮植・定植・散水・除草まで、児童が積極的に取り組んでいる。また、奉仕作業や肥料の提供など、保護者や地域の熱心な協力もある。その成果が認められ、昨年度と緑の環境美化コンクールで茨城県知事賞を受賞し、モデル指定花壇となった。さらに今年度は、県主催のいばらきエコライフ・フォーラムにて環境美化功績者として表彰された。

保護者や地域の信頼に支えられ、全校児童五十五名が自ら学び、心を磨き、体を鍛えている。それが我が袋田小学校である。

「未来をつくる北小の子」

鉾田市立旭北小学校

本校は、鉾田市の北部にあり、今年で創立三十五周年を迎える。学区には、涸沼とその支流である大谷川がある。

本校では、この恵まれた自然を生かして、平成十二年度より環境教育に取り組み、「涸沼プロジェクト」と称して、六つの部門で活動している。

クリーン作戦では、涸沼浄化活動として通学路や堤防のゴミ拾いを年二回実施している。同時に大谷川と涸沼の水質検査としてCODのバックテストや透明度を調査している。

飼育・栽培活動では、草花を学級花壇や一人一プランターで育てる。また、一・二年生はさつまいも栽培、三年生はビオトープの観察、四年生はEMの培養と活用、五年生は大谷川の水を利用した米づくり、六年生はケナフの栽培を行っている。冬には、サケの卵を孵化させて、稚魚を大谷川に放流している。

リサイクル・募金活動では、給食牛乳パック回収とエコキヤップ活動に取り組んでいる。交流活動では、地域の高齢者クラブの方との昔あそび、学区の社会福祉施設への訪問と運動会への招待を行っている。北小フェスティバルでは、地域の散策、かかしコンテスト、ふれあい活動後はおにぎりときつま汁で収穫の喜びを味わう。涸沼浄化推進小学校連絡会議

では、毎年、環境学習の活動内容を「小学生涸沼・川フォーラム」で発表し、情報交換を行う。これらの活動には、多くの保護者や地域の方々の協力を得ている。また、児童は、活動を通して何事にも積極的に取り組むことができるようになってきた。六年生は、やがて自分で作ったケナフの卒業証書を手にして卒業していく。地域の宝「涸沼」を守る活動を、これからも続けていきたいと考えている。

生き生きとした

児童の育成を目指して

八千代町立西豊田小学校

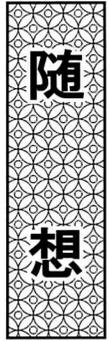
本校は、東に鬼怒川が流れ、遠く筑波山をのぞめる豊かな園地帯にあります。児童数は三〇一名で、全学年とも二学級の規模校です。昔からの住民、また、祖父母との三世代同居家庭が多く、学校には協力的です。児童の登下校の安全にも地域で目を配ってくれています。

本校の取組の特色を大きく三点挙げます。第一点目は、児童の活動です。本校では大変読書活動に力を入れています。町の図書を巡回させてもらい、多くの図書を巡らせてもらい、多くの図書に親しむ機会を作っても

らっています。また、学校でも皆さんの費用を図書購入費に充てています。その結果、県の事業である「みんなにすすめた一冊の本推進事業」では、毎年四年生以上の児童全員が五〇冊読破を達成しております。

第二点目は生徒指導に関わる取組です。保護者の中には、共働きのために子どもとのふれあいの時間が余り持てないという声があり、子どもの精神の安定はなんとと言っても親子のふれあいがあると考え、一日一回は親が子どもをギュッと抱きしめることを行う『スキスキ週間』を実施しています。さらに、この「週間」の終わりには保護者からの感想を提出してもらっています。保護者からは「こういう機会がなかったのでもよかったです。」「子どもが落ち着くようになってきた。」など前向きな感想をいただいています。

第三点目はPTAと連携した活動です。毎年六月にはPTA主催の親子レクリエーションとして「四方綱引き」、十一月には「ふれあい集会」と年二回の大きな行事を行っています。このような活動を通して、学校が保護者や地域と一体となって児童のために取り組んでいます。



### 子どもたちのために

高萩市立高萩小学校

鈴木 博

十五年ぶりの小学校勤務。教頭職という新しい立場での勤務

赴任当初は、日々、「今日はまず何をすべきなのか。優先順位は？」、「先生方からの相談に対して、このような対応でよいのか。」という思いでした。明日が見えず、戸惑うばかりの1学期でした。

勤務している高萩小学校は、太平洋を望む高台に建ち、荘厳な巨木、ピオトープまである、歴史と伝統のある素晴らしい学校です。このような環境で学べる子どもたちは幸せです。(今年度、除染作業や耐震工事のためやや問題あり)もちろんわたしも幸せなはずですが・・・反省ばかりです。しかし、日々、「子どもたちのために」という気持ちだけはもち続けてきました。思うように仕事ができずつらいときもありましたが、子どもたちの笑顔と、朝日を浴びて輝く太平洋の美しさに度々助けられました。

これからも、子どもたちのため、職員のために、フレッシュな気持ちで、「元氣と笑顔」でがんばろうと思います。

### 父の姿

城里町立石塚小学校

川又 寛実

朝読で育った子どもたちが今、親世代となり、家庭での読書が広がりを見せている。一方、私はというと、「野球」に明け暮れ、読書の「ど」の字もない少年だった。

そんな中、町の電気屋さんから毎月届く小さな雑誌があった。その小さな雑誌を読んでいたのは父であった。父は、そのほかにも定期購読の本が数冊あり、かなりの読書家だったように思う。そんな環境の中でも、なかなか読書に傾倒しなかった私が、今は毎月十日発売のその小さな雑誌を楽しみにしていることを、亡き父はどのように思うだろう。そして、私の三人の子どもたちは、その小さな雑誌を楽しみにしている父の姿をどのように見ているだろう。横浜で一人暮らしをしている大学生の娘に、その小さな雑誌を定期購読ギフトで送っている。想像すると、う

れしくなってくる。近い将来、子どもたちがその小さな雑誌「PHP」(昭和二十二年五月創刊)を楽しみに手にしている姿に。

### 大好きな季節

取手市立永山中学校

岡野 あつ子

金木犀の香る頃、どここの学校からも校舎から生徒たちの合唱が聞こえてきます。私の一番好きな季節です。

クラスが一丸となって、ひとつの合唱を創り上げる、その姿は何にも替えがたい宝物を見るような気持ちになります。その裏には、どれだけ友達とのやりとりや支え合いがあったことでしょうか。リーダーの苦勞・リーダーを支える友達の励まし・担任の先生や学年の先生たちの支援。そして、初めはやる気のなかった生徒たちが少しずつ友達や先生の情熱に動かされて合唱の輪の中に入っていく……。そういう姿を見たり聞いたりするのが、私は大好きです。特に三年生の指揮者・伴奏者を中心に真剣に取り組む姿や仕上がった歌声は、聴く人に大きな感動を与えてくれます。中学

生のエネルギーって本当に素敵です。また、大人には出せない「中学生」の声の響き。最高の魅力です。一生の中で「この時にしか味わえない響き・感動」を大事にしてほしい、といつも思っています。

### 伝えたい、言葉の大切さ

下妻市立豊加美小学校

小森 孝夫

「うげい」「消えろ」そして、「死ね」「ぶっ殺す」。ときどき子どもたちの口から、とても恐ろしい言葉が聞こえてくる。友達同士のこと、それほどの敵意があるとは思えないし、もちろん殺意などあるはずもない。アニメやゲーム等、仮想世界の言葉、引用しているに過ぎないのだから。

しかし、前述の言葉は、相手に発せられた以上、人権侵害も甚だしい意味をもつ。わたしたち教職員は、こうした言葉の暴力を決して許してはならないだろう。学習指導要領も「言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整える」ことを求めている。言語活動の充実の基盤には、人権感覚と人権意識

が不可欠なのである。

それでは、子どもたちの前に立ったときのわたしたちの言語感覚は、果たして常に適切と言えるだろうか。子どもたちの人権を無視した言葉遣いをしていないだろうか。言語による表現も、教職員は子どものお手本でなければならぬ。言葉の大切さをしっかりと伝え、身に付けさせていきたい。



### 編集後記

教頭会会報一六〇号(県南地区担当)を発行するにあたり、各ページの執筆に際し、ご多忙な時期にもかかわらず、快く原稿をお寄せいただき、誠にありがとうございました。お陰様で無事に教頭会会報を会員の皆様にお届けすることができました。皆様方のご協力に深く感謝申し上げます。